

[省令第8条の4の5 (1,000トン以上排出事業者用)]

様式第2号の8 (第8条の4の5関係)

(第1面)



産業廃棄物処理計画書

平成27年 6 月 30 日

(宛先) 長野市長 加藤 久雄 様

提出者

住 所 長野県長野市篠ノ井布施高田955番地3

氏 名 川中島建設株式会社

代表取締役社長 小川 亮夫

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 026-292-1341

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	川中島建設株式会社
事業場の所在地	長野県長野市篠ノ井布施高田955番地3
計画期間	平成27年 4月 1日 ~ 平成28年 3月 31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	総合建設業
② 事業の規模	完成工事高 21億
③ 従業員数	44名
④ 産業廃棄物の一連の処理工程	廃棄物収集運搬業者、処分業者と委託契約を交わし、廃棄物の適正処理状況の確認を管理票により管理する。管理票は5年間の保管をする。

(日本工業規格 A列4番)

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)  
別紙組織図

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(平成 26年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く	がれき類(コンク リガラ、廃アス	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管
	排出量	33.50t	2.00t	2.00t	973.00t		24.50t
②計画	産業廃棄物の種類	石綿含有産業 廃棄物	紙くず	木くず			
	排出量	0.70t	3.30t	883.60t			
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・工場で建設資材を加工し、現場での端材の発生を抑制する。</li> <li>・加工材料の搬入数量を適正に管理する。</li> <li>・再利用できる梱包材の使用を求め、梱包ごみの発生を抑制する。</li> </ul>						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く	がれき類(コンク リガラ、廃アス	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管
	排出量	34.00t	2.00t	2.00t	980.00t		25.00t
②計画	産業廃棄物の種類	石綿含有産業 廃棄物	紙くず	木くず			
	排出量	1.00t	4.00t	890.00t			
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・工場で建設資材を加工し、現場での端材の発生を抑制する。</li> <li>・加工材料の搬入数量を適正に管理する。</li> <li>・再利用できる梱包材の使用を求め、梱包ごみの発生を抑制する。</li> </ul>						

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリートくず、ガラス陶磁器くずは骨材等として再利用する。</li> <li>・木くず、金属くず、廃プラスチック類は、再利用のための分別を徹底する。</li> <li>・作業所内での分別を行い、混合廃棄物となる割合の削減を図る。</li> </ul>
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリートくず、ガラス陶磁器くずは骨材等として再利用する。</li> <li>・木くず、金属くず、廃プラスチック類は、再利用のための分別を徹底する。</li> <li>・作業所内での分別を行い、混合廃棄物となる割合の削減を図る。</li> </ul>

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（平成 26年度）実績】		産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く	がれき類(コンク リがら、廃アス	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管
①現状	自ら再生利用を行 った産業廃棄物の 量							
	産業廃棄物の種類	石綿含有産業 廃棄物	紙くず	木くず				
	自ら再生利用を行 った産業廃棄物の 量							
	(これまでに実施した取組)							
【目標】		産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く	がれき類(コンク リがら、廃アス	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管
②計画	自ら再生利用を行 う産業廃棄物の 量							
	産業廃棄物の種類	石綿含有産業 廃棄物	紙くず	木くず				
	自ら再生利用を行 う産業廃棄物の 量							
	(今後実施する予定の取組)							

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（平成 26年度）実績】		産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く	がれき類(コンク リがら、廃アス	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管
①現状	自ら熱回収を行 った産業廃棄物 の量							
	自ら中間処理に よって減量した 産業廃棄物の 量							
	産業廃棄物の種類	石綿含有産業 廃棄物	紙くず	木くず				
	自ら熱回収を行 った産業廃棄物 の量							
	自ら中間処理に よって減量した 産業廃棄物の 量							
	(これまでに実施した取組)							
【目標】		産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く	がれき類(コンク リがら、廃アス	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管
②計画	自ら熱回収を行 う産業廃棄物 の量							
	自ら中間処理に よって減量する 産業廃棄物の 量							
	産業廃棄物の種類	石綿含有産業 廃棄物	紙くず	木くず				
	自ら熱回収を行 う産業廃棄物 の量							
	自ら中間処理に よって減量する 産業廃棄物の 量							
	(今後実施する予定の取組)							



## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(平成 年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く	がれき類(コンク リがら、廃アス ファルト、レンガ)	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管理 型)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行 った産業廃棄物の量						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く	がれき類(コンク リがら、廃アス ファルト、レンガ)	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管理 型)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行 う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	石綿含有産業 廃棄物	紙くず	木くず			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行 う産業廃棄物の量						
(これまで実施した取組)							
(今後実施する予定の取組)							

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(平成 26年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡 スチロール等)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く ず(石膏ボード等)	がれき類(コンク リがら、廃アス ファルト、レンガ)	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管理 型)
	全処理委託量	33.50t	2.00t	2.00t	973.00t		24.50t
	優良認定処理業者への 処理委託量	33.46t	2.00t				
	再生利用業者への 処理委託量	10.80t	1.90t		972.90t		
	認定熱回収業者への 処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量						
①現状	【前年度(平成 26年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡 スチロール等)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く ず(石膏ボード等)	がれき類(コンク リがら、廃アス ファルト、レンガ)	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管理 型)
	全処理委託量	0.70t	3.30t	883.60t			
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.65t	3.20t	21.65t			
	再生利用業者への 処理委託量	0.70t					
	認定熱回収業者への 処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量						
(これまで実施した取組)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・処分業者と処理内容を確認し、適正な委託契約を締結する。</li> <li>・マニフェスト伝票の管理を徹底する。</li> </ul>							

【目標】						
産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡 スチロール含)	金属くず	ガラス・コンク リート・陶磁器く ず(石膏ボード含)	がれき類(コンク リがら、廃アス ファルト、レンガ)	汚泥(上・下水、 建設、その他)	建設混合廃棄 物(安定型、管理 型)
全処理委託量	34.00t	2.00t	2.00t	980.00t		25.00t
優良認定処理業者への処理委託量	34.00t	2.00t				
再生利用業者への処理委託量	34.00t	2.00t		980.00t		
認定熱回収業者への処理委託量						
認定熱回収業者以外の熱回収を行 う業者へ処理委託量						
産業廃棄物の種類	石綿含有産業 廃棄物	紙くず	木くず			
全処理委託量	1.00t	4.00t	890.00t			
優良認定処理業者への処理委託量						
再生利用業者への処理委託量	1.00t		890.00t			
認定熱回収業者への処理委託量						
認定熱回収業者以外の熱回収を行 う業者へ処理委託量						
(今後実施する予定の取組) ・処分業者と処理内容を確認し、適正な委託契約を締結する。 ・マニフェスト伝票の管理を徹底する。						
※事務処理欄						

②計画

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が12以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。  
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処 理 事 項		産 業 廃 棄 物 の 種 類 (実績値・計画値)											合 計	
		廃プラスチック(廃タイヤ、廃ゴム)	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器ノ	がれき類(コンクリがら、廃プラスチック)	汚泥(上・下水、建設、その他)	建設混合廃棄物(安定型、管理型)	石綿含有産業廃棄物	紙くず	木くず				
排出抑制に関する事項	前年度排出量(実績)	33.50t	2.00t	2.00t	973.00t		24.50t	0.70t	3.30t	883.60t				1,922.60t
	本年度排出量(計画)	34.00t	2.00t	2.00t	980.00t		25.00t	1.00t	4.00t	890.00t				1,938.00t
自ら行う(行った)再生利用に関する事項	前年度実績													
	本年度計画(目標)													
自ら行う(行った)中間処理に関する事項	自ら行う(行った)熱回収の量	前年度実績												
		本年度計画(目標)												
	自ら中間処理により減量する(した)量	前年度実績												
		本年度計画(目標)												
自ら行う(行った)埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	前年度実績													
	本年度計画(目標)													
処 理 の 委 託 に 関 す る 事 項	全処理委託量	前年度実績	33.50t	2.00t	2.00t	973.00t		24.50t	0.70t	3.30t	883.60t			1,922.60t
		本年度計画(目標)	34.00t	2.00t	2.00t	980.00t		25.00t	1.00t	4.00t	890.00t			1,938.00t
	優良認定処理業者への処理委託量	前年度実績	33.46t	2.00t					0.65t	3.20t	21.65t			60.96t
		本年度計画(目標)	34.00t	2.00t										36.00t
	再生利用業者への処理委託量	前年度実績	10.80t	1.90t		972.90t			0.70t					986.30t
		本年度計画(目標)	34.00t	2.00t		980.00t			1.00t		890.00t			1,907.00t
	認定熱回収業者への処理委託量	前年度実績												
		本年度計画(目標)												
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	前年度実績												
		本年度計画(目標)												

【記載方法】

- 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の上段に前年度の実績（現状）を、下段に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれぞれの内訳を記載してください。